

- ◆ ワールドマスターズゲームズは、**一般参加型の国際総合競技大会**として、**世界最大規模**を誇り、参加者の多くは競技と観光の両方を目的に開催地域を訪れる。
- ◆ 大会の開催は、開催地域へ多くの経済効果をもたらすだけでなく、多世代、多地域、多文化の多様な参加者の受入を地域全体で取り組むことにより、地域の組織や人材が活性化され、**埋もれていた地域の魅力の再発見や郷土愛の再確認**にもつながる。
- ◆ この大会の特徴を十分に引き出して、生涯スポーツの先進地である関西の豊富なスポーツ資源と観光資源を融合させ、日本が持つ**おもてなしの精神**をもって、世界の人々が感動する**スポーツツーリズムの体験**を提供するとともに、**マスターズゲームズやわが国の生涯スポーツの転換点ともなるような、先導的な大会をめざし**、国、自治体、経済界、スポーツ団体、大学関係等と連携し、オールジャパン体制で取り組む。

第1章 大会概要

大会名	関西ワールドマスターズゲームズ2021 (英語表記) World Masters Games 2021 KANSAI
開催期間	2021年5月15日(土)~30日(日)(16日間)
開催競技	公式競技、オープン競技、デモンストレーション競技
開催場所	関西一円(2016年10月に競技種目、会場地を決定)
参加者数	選手5万人(国内3万人、国外2万人)(目標)

本大会の特徴と取組姿勢

◎アジア初開催

⇒ アジアにおけるマスターズ文化のパイオニアやツーリズムの起爆剤となる大会とするため、アジア各国に潜在しているマスターズスポーツのニーズの掘り起こしや訪日旅行者の取り込みなどを積極的に推し進める。

◎初の広域開催

⇒ 各府県政令市が地域独自の工夫を凝らした取組を競い合いつつも、関係者全員が綿密に連携を図り、オールジャパンで一体的な取り組みを推し進め、関西・日本の文化・産業の活性化につなげるなど、地域の創生に取り組む。

◎過去最大規模

⇒ 随行者も含めて国内外から15万人を超える人々が開催地域を訪れる過去最大規模となる本大会の効果をさらに高めるため、日本が持つおもてなしの精神を最大限に発揮する取組を推し進め、世界の人々が感動する最高の舞台を提供する。

◎大規模国際スポーツ大会の連続開催

⇒ 2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会と連携した取組を推し進め、両大会の成果を本大会にしっかりと取り入れ、相乗的に活かしながら、高まった「みる」スポーツの機運を「する」スポーツにつなげて、生涯スポーツ社会の実現に寄与する。

第2章 大会基本構想

《大会基本理念》

一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、次世代に夢をおくる生涯スポーツの祭典を創出する。

《大会テーマ》

スポーツ・フォー・ライフの開花
(The Blooming of Sport for Life)

《大会エンブレム》



第3章 レガシー創出の基本方針

- ◆ 本大会では、**大会の開催によってもたらされる様々な分野の成果や便益を積極的に次世代に遺していくため**、長期にわたって継承・享受される**レガシーの創出について検討**し、大会開催の準備と並行して**具体的なアクションを展開**していく。
- ◆ 2016年度に、様々な分野の専門家や有識者で構成する「**レガシー策定委員会(仮称)**」を**新たに設置**し、どのような成果や便益が継承・享受されるのかといったレガシーの創出作業とともに、それらのレガシーを積極的に遺していくため、大会開催の準備段階からどのようなアクションを展開していくのか、検討する。
- ◆ レガシー創出にあたっては、**レガシーの成果や便益を最大化**するため、以下の基本視点をもって検討する。
 - ・過去大会のレガシーの継承とともに、生涯スポーツの先進地 関西での広域開催となる本大会の特徴を活かした「**新たなレガシーの創出**」
 - ・2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会と連携した「**相乗レガシーの協創**」
 - ・関西各地の多様性と独自性を重視した「**ローカル・レガシーの創出**」とアジア初のパイオニアとしての「**グローバル・レガシーの可能性の追求**」
 - ・創出されたレガシーが人や地域にしっかりと根付き、未来に引き継がれるよう、多くの主体的な参画者を得て、連携してアクションを展開する「**レガシーの共同実現**」

第5章 大会フレーム及び機能

- ◆ 大会の基本的な構成要素となる大会フレームと、開催のために必要な大会機能やその取組目標などを定め、これらを共通認識として各関係機関が連携を図り、適宜検証を行いながら、大会準備を推し進めていく。

大会フレーム

○大会運営体制

- ・大会全体を統括する機能を置いた大会センターを設置する。
- ・各競技種目ごとに、競技運営の主体となる競技会場本部を設置する。
- ・総合案内所や大会センターでのEXPOの開催など、おもてなし文化を発揮した受け入れ体制を整備する。

○参加申込・出場登録

- ・原則として、大会前にインターネットで参加申込及び参加料の決済を行う。
- ・大会期間中の出場登録受付は、大会センターをメイン会場とするとともに、広域開催を考慮して各競技会場でも出場登録できるようにする。

○公式競技

- ・IMGAが指定又は承認する公式競技は30競技とし、その他、日本・関西らしさをPRできる競技をオープン競技として開催する。
- ・障がい者が健常者と同じフィールドで競技することで、相互理解を促進し、共感と一体感を生み出す。

○デモンストレーション競技

- ・だれもが気軽に参加できる多彩なデモンストレーション競技を開催し、全ての人々のスポーツ活動への参加を積極的に推進する。

○開閉会式・中間イベント

- ・開閉会式に加え、大会期間中のにぎわいを創出するための中間イベントを開催する。

第6章 各大会機能の推進スケジュール

- ◆ 大会フレーム及び大会機能別に、大会の開催準備段階から開催後までのスケジュールを示し、関係者全員が今後の取組推進の道標として活用する。

第4章 大会推進構成

推進体制

■組織委員会及び各府県政令市実行委員会

各分野の個人や団体が参画する組織委員会及び各府県政令市実行委員会を推進体制の中心に据えて、関係者の協力連携を図っていく。

■連絡協議会

組織委員会及び各府県政令市実行委員会の事務局で構成する連絡協議会を設置し、進捗状況や方向性の共有などを綿密に行う。

■関係団体との連携

組織委員会は、スポーツ庁、その他関係省庁、日本体育協会をはじめ、各種関係団体等と連携し、推進体制を構築する。

■多くの人が参画できる環境づくり

組織委員会内に専門委員会やワーキングチームを適宜設置するとともに、本大会の取組について活発に議論・提案できる環境づくりを行い、多くの人が協力連携し、多様な意見を取り入れて、取組を推し進めていく。

各種計画の策定

- ◆ 推進体制の中心となる組織委員会と各府県政令市実行委員会が、種々の有意な意見や提案を踏まえた取組を具体化しながら、一体的かつ効果的に大会準備を推し進めるよう、レガシー策定委員会で検討された事項を取り入れつつ、大会推進に必要な各種の実施計画を策定していく。
- ◆ 2016年度には、組織委員会と各府県政令市実行委員会の役割分担や基本計画の大会フレーム及び機能を具体化した**第1次総合実施計画**を策定する。

大会機能

○安全対策・医療救護対策・危機管理対策

- ・警察、消防等の関係機関と綿密に連携し、緊急時にも迅速かつ適切な処置ができるよう対策を講じ、だれもが安心して参加できる大会を実現する。

○宿泊・交通

- ・大会参加者や関係者等の多様なニーズに応じた、十分かつ適切な宿泊施設の情報を提供するとともに、競技会場と宿泊地間や開催都市間のスムーズな移動を実現するため、交通パスの導入や臨時輸送サービスなどを検討する。

○観光・文化

- ・関西の豊かな観光資源、文化資源を活用した多彩なプログラムとおもてなしメニューを用いて、わが国で連続開催される大規模国際スポーツ大会の最後にはふさわしいスポーツツーリズムを実践する。

○広報・マーケティング

- ・国内、国外の参加選手の目標数に沿った広報計画を策定・展開するとともに、生涯スポーツ社会の実現に寄与するプロモーション活動を展開する。

○ボランティア

- ・企業や大学等と連携した人材の確保やボランティアの組織化などに取り組み、スポーツ活動を支えるボランティア文化の醸成に寄与する。

○言語サービス

- ・多言語対応ボランティアの確保や多言語によるサイン掲出など、多様な言語サービスを提供し、多地域、多文化の円滑な交流を実現する。

○財政

- ・大会開催に必要な収入の確保と効率的な予算執行に努めるとともに、財政リスクに対する適切な対応を図り、健全な財政を維持する。

○その他(出入国、大会記録・発信など)